



図面概要・検討事項

- シックハウス換気については給気・排気の経路が検討事案となります。  
シックハウス換気は1種換気（機械給気+機械排気）が理想ですが、小規模建物の場合、小規模・省コストの場合、3種換気（自然給気+機械換気）で行われることも多くあります。本図は3種換気の検討図です。その場合においても各室の新鮮空気の入力が課題になるかと思われます。また、居室給気と排気の経路は短絡しないよう十分考慮する必要があります。
- 部屋間の開き戸の常時開口が換気経路として認められるか。  
一般的に開き戸は使用者の使用方法に依存するため、換気経路としては認められずガラリ（ドアガラリなど）又はドアアンダーカット等が求められます。
- 換気経路としてのドアガラリ又はアンダーカットの必要寸法  
ドアガラリ：有効開口10~15cm<sup>2</sup> アンダーカット：1~2cm程度  
ドアガラリに限らず、壁面に固定ガラリを設ける場合も同様以上の有効開口面積を確保する必要があります。
- A室（事務室）とF室については発散物質を別居室（B室やG室）を経由させることを避けるため個室で給排気を完結させています。

県指定重要文化財 洋学校教師館設備基本計画	枚の内 号	整理番号 P-1
換気設備計画		日付 H24
図面名 1・2階 平面図	縮尺 1/100	
公益財団法人 文化財建造物保存技術協会	担当	担当